

教 育 長 様

研究コース	グループ研究Aコース
校 園 コー ド (代 表 者 校 園 の 市 費 コー ド)	561155

代表者 校 園 名 : 大 阪 市 立 本 田 小 学 校
校 園 長 名 : 銭 本 三 千 宏 校 印
電 話 : 6581-1531 FAX: 6581-3194
申 請 者 校 園 名 : 大 阪 市 立 本 田 小 学 校
職 名 ・ 名 前 : 校 長 銭 本 三 千 宏
電 話 : 6581-1531 FAX: 6581-3194
代 表 者 校 園 事 務 職 員 名 : 大 谷 由 香

平成30年度「がんばる先生支援」グループ研究 申請書

◇ 本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	グループ研究Aコース	研究年数	新規研究(1年目)
2	研究テーマ	資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実践的研究 -----授業へ効果的にICTを活用するために----- ◆ 研究内容のキーワード: 研究の内容をキーワードで記載してください。(【例】学力向上、体力向上等) 「ゴールを明確にした逆向き設計論に基づくカリキュラム」 WHERETO 「主体的・対話的で深い学び」の創造 「ICTを効果的に活用した学び」の活用 「小学校でどのような資質・能力が身に付けなければならないのか」 という学習内容のゴール パフォーマンス評価 ポートフォリオ評価 eポートフォリオ評価 ルーブリック			
3	研究目的	テーマに合致した目的を端的に記載してください。 平成27年3月に第1回日本・OECD政策対話「2030年に向けた教育の展望」が報告され、2045年には人工知能(AI)が人間の知能を超える転換点(技術的特異点)を迎えると予想されている。そして、人類はAIと共に生きなければならないとも言われ、現在の児童が社会人として活躍する時代には指数関数的な変化が予想される。以上の時代の要諦をふまえ新学習指導要領では「新しい時代に求められる資質・能力の育成」が求められている。本研究の目的は、6年に渡り取り組んできた「ICTの授業での効果的な活用方法の研究」をふまえ、新しい時代に求められる資質・能力の育成を育む「社会に開かれたカリキュラム」を創造し、マネジメントし、学びがよいある授業を児童に提供することである。			
4	研究内容	継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。 研究は次の4つの視点で行われる。 ○ 児童は何ができるようになるのか。 「ゴールを明確にした逆向き設計論に基づくカリキュラム」の研究をする。Grant Wiggins博士JAY McTighe博士のUNDERSTADING by DESIGN(理解をもたらしカリキュラム設計)を理論のベースとする。 ○ 児童は何を学ぶのか パフォーマンス課題の青写真をもとに児童が学習する経験をWHERETOで整理する。WHERETOとはW(What何が期待されているか)H(Hook指導をひきつけ、Hold関心を維持する。)E(Experience鍵となる観念を経験させ、Explore論点を探究させる)R(Rethink児童が理解を再考し、Revise修正する)E(自らの学びや作品をEvaluate評価させる)T(児童の学びをTailor個別化させる)O(児童の学びのために指導をOrganize組織化させる)である。 ○ 児童はどのようにして学ぶのか 「主体的・対話的で深い学び」を創造し、授業への「ICTの効果的な活用」を図る。また、各教科の系統性を重視し、「小学校でどのような資質・能力が身に付けなければならないのか」という各教科の学習内容のゴールを明確にし、指導計画と指導の改善及び充実を図る。 ○ 児童は何が身に付いたのか。 「児童が知識やスキルを様々な状況において使いこなすことができたか」を評価するパフォーマンス評価やポートフォリオ評価、eポートフォリオ評価の研究を行う。特に児童と指導者が明確に「児童の自らの成長」を共有するためのルーブリックの研究を重点的におこなう。			
5	活動計画	日程など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。 (現在決定している研究会 及び 指導していただく先生。この他教科教育に特化した提案授業も行う予定。) 5月29日 研究推進相談会 和歌山大学 豊田充崇先生 6月15日 第1回公開授業(ICT活用を含む) 和歌山大学 豊田充崇先生 7月4日 逆向き設計論による授業研究会 京都大学 北原琢也先生 9月12日 パフォーマンス課題に焦点をあてた授業研究会 京都大学 石井英真先生 10月3日 学習内容の系統性に焦点をあてた授業研究会 関西学院大学 佐藤真先生			

		10月10日 研究推進相談会 和歌山大学 豊田充崇先生 10月26日 第2回公開授業(情報教育を含む) 武蔵大学 中橋雄先生 11月16日 逆向き設計論による授業研究会 兵庫教育大学 奥村好美先生 11月30日 ルーブリックのあり方を軸にした授業研究会 兵庫教育大学 奥村好美先生 12月12日 新学習指導要領と逆向き設計論を軸にした授業研究会 関西学院大学 佐藤真先生 1月8日 研究推進相談会 和歌山大学 豊田充崇先生 1月20日 第3回公開授業(プログラミング学習を含む) 和歌山大学 豊田充崇先生				
6	見込まれる成果	大阪市教育振興基本計画に示されている <u>子どもの様々な力の育成</u> および <u>教員の資質や指導力の向上</u> について、見込まれる成果を端的に記載してください。 ○「生きて働く『知識・技能』の習得」「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力』の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」といった資質・能力を育成することができる。 ○新学習指導要領の趣旨を実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進の仕方を実践的に提案することができる。 ○「ICTを効果的に活用した主体的・対話的で深い学び」を実際に授業公開し、「どのように児童は学ぶか」を提案することができる。 ○資質・能力を育成するための評価方法、特にパフォーマンス評価のあり方を公開し、「汎用的なスキルの評価法」を提案することができる。 ○学校協議会の委員、保護者・地域、大阪市内外の教員に本研究の成果を公開し、本校の教育のステークホルダーの拡大を図ることができる。				
7	成果の検証方法	客観的な指標により、 <u>必ず数値で示すことができる検証方法</u> を記載してください。 ○公開授業については参観者に授業アンケートを行う。アンケート形式についてはICTモデル授業の「教育センターの調査用紙」を使用する。肯定的な意見が80%を超えることを目標にする。 ○経年調査を活用し、児童の「知識・技能」をはじめとする学習状況で成果を検証し、前年度より高い学習の習得を目指す。 ○大学関係者(和歌山大学 豊田充崇先生、京都大学 北原琢也先生、兵庫教育大学 奥村好美先生、関西学院大学 佐藤真先生、武蔵大学 中橋雄先生、兵庫教育大学 徳島 祐彌先生、京都大学 石井英真先生等)から本研究のコメントやアセスメントをいただく。 ○公開授業・研究会の参加者の延べ人数が200名以上を目指す。				
8	研究発表の日程・場所(予定)	研究発表は <u>報告書提出日(平成31年2月25日)までに必ず行ってください。</u> ○研究発表の日程・場所(予定) 最低年に3回は公開研究会を行う予定です。 <table><tr><td>日 程</td><td>平成 30 年 10 月 26 日</td></tr><tr><td>場 所</td><td>大阪市立本田小学校 上記日程以外に複数回授業公開の予定です</td></tr></table>	日 程	平成 30 年 10 月 26 日	場 所	大阪市立本田小学校 上記日程以外に複数回授業公開の予定です
日 程	平成 30 年 10 月 26 日					
場 所	大阪市立本田小学校 上記日程以外に複数回授業公開の予定です					
	研究成果の共有方法	○研究成果の共有方法:研究発表 および 代表校園HPでの共有は必須です。他の共有方法を計画している場合は記載してください。 研究授業、公開授業の内容については、随時、本校のホームページに掲載していく。また、本校の研究について視察依頼がある場合、校内行事等の支障がない限り受け入れ、研究を発信していく。				
9	代表校園長のコメント	次期学習指導要領では社会に開かれた教育課程の実現が重要となっている。「論点整理」でも示されているが、資質・能力という汎用的能力を育成するためにはゴールを明確にし、評価を先に計画し、単元構成するというカリキュラムデザインや授業デザインする「逆向き設計論」が有効である。また、授業でICTを有効に活用するためにも「逆向き設計論」は有効である。新学習指導要領への円滑な移行の仕方や授業におけるICT活用の活性化の方法など、本市教育推進に参考になる研究であると考えます。				